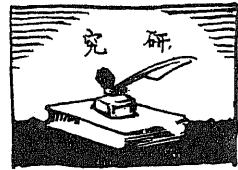


一年間の保育 (三)



大阪市御津幼稚園 宮 本 光 代

十一月

一日からお辨當が始つて待ちかねてゐた保育時間の延長が行はれる事になりましたが十一月十二月と二ヶ月に續く狭い假住居の不自由さは私にこつて相當苦しい経験でございました。一日の中にさうしても入室しなければならぬ時が三回ございましてそれは朝九時半に始業の合圖があります。兎も角も遊びを止めてお部屋へ入りて自分の座蒲團の布かれた机の前へ坐ります。其れから整容が始り鼻をかんでから改めて朝の挨拶を交して遙拜、君ヶ代合唱、之れが一通り終つて後に今日のお仕事なり唱歌なりの保育項目に入つて行きます。お午のお辨當の合圖は十一時二十分にございまして此の時になります。待ちかねた様に洗面場

へ集り、手を洗ひ清める。お部屋へ入つてお膳の前へ坐つて居ります。そして名前を呼ばれた子供から一人々々お辨當を受け取る。早速用意を致しまして保姆がつぎます。水でうがひを済ませてから靜かに揃ふのを待つて「戴きます。で皆一緒にお箸を取る事になつて居ります。

お歸りの時は一時半に合圖があつて再び入室致します。自分の靴お辨當、帽子等を取つて机の前に置き帳面を出して捺印を待つのでございました。斯うした一定の形式で毎日の保育が繰返されて居りましたがその時は大體保姆中心になつて居りましたから子供一人々々の自發活動は其の爲可なり抑へて居らねばなりません。其處の手加減がさうも私にはうまく行けないのでして和やかに圓滑に

行はれてゐる組に引きかへて自分の組のこの騒々しさ、混雑さは、毎日惱みの種になつて居りました。毎日く之れだけの事をさせる爲に何さかして混雑を除きたいものだと思ひまして机の並べ方も色々替へてもみましたし臨時に帽子掛けも作つて机にも一人くの名札を貼つて、坐る位置を定めて置きました。靴脱場が一番紛らはしくなりまして脱ぐ度びにお靴く揃へる事を注意致しました。そうして入室して了ひますれば、一人として公然と受入れてやれる子供の動作も集團生活なるが爲に、拵ねばならない事も起つて來まして思ふまゝの雑談や立歩きも度々止めさせねばなりませんでしたし、うがひをするにも物を配るにも、一定のきまりに従つて、運んで行かねばなりませんでした。子供の個性を重んじて思ひくゝの活動をさせるのが良いと思つて居りまして其れを許せば益々混雑さを増す計りになりますので結局は不自然な環境の中では矢張り不自然な方法を當てはめて行かねばならない。廣く大きな自然に抱かれて育まれて行く子供狭い保育場へ入らねばならない子供の取扱ひも、自らそれに應じた様に變

つて行かねばならないのか云ふ考へに落付きましたも日頃の生活には何か充されぬ物がありました。

叔子供の生活はミ申しますミ斯うした私の氣持に何のこだはりも無く日々新たにきよみなく進められて居りました。丁度菊の花盛りの頃でもございしますので、明治節を迎へて間も無い日、全園児打連れて、千里山へ遠足に出掛けました。

其の後の幼稚園も刻一刻の粧ひに變つて参りまして取りくゝの菊の花も咲き亂れ、紅葉銀杏、藤櫻なぎ美々しく色付いた木の葉が著しく庭に舞ひ落ちる頃になつて子供の世界は何處までも恵まれて居りました。その頃、先日取毀ちの際拾ひ集めて置きました、色々の飯事道具を、玩具箱を造らへて與へました所、非常な喜び方でございまして内外を問はずに菊の花瓣、落葉大根砂色紙なぎを使つて自分達同志でとても良く遊べる様になりました。漸く團體的な遊びに興味がのつて來たのでございませうか、うららかな小春日和の午後は打揃つて庭に出て花一匁や、野に出て遊ばん等の團體遊戯で時の經つのも忘れて遊び續けられる

のでございました。

此の外に丁度此の頃「幼児の觀察のさせ方」の書物を讀ませて頂きました後で多少こも智識を得た嬉しさから庭に出て片ツ端から觀察させて見たくなり、あぢさるの葉に手を比べ合せたり木の芽を探させたり紅葉の葉の數を讀ませたりする事を面白く行つて居りました。二十日に動物園で園外保育がございました時も、此の時こ許り直觀教育を充分に試みた積りでございました。

去年は動物園へ参りまして後かれこれ一ヶ月程かけて温室の中に動物園を作りましたが今年は第一造らへる適當な場所がございませんし、未だ子供の製作慾が其處まで届かない様に思はれますのミ、一つは、幼稚園全體が此の頃特に日常生活上の躰方や國民精神の涵養なきに力を入れる風に向いて居りましたので大掛りな仕事を始める氣にもなりませんでさうく此の月も過ぎて了りました。

十一月中の保育事項

(一)手 技

粘土(菊の花の植木鉢) 粘土(種こみかん) 國旗 手提

四四

袋(摺み紙) 粘土(松茸) 紋形(貼り方) 自由畫 塗り繪(もみぢ) 塗繪(植木鉢) 粘土(自由製作) 壁掛菊の花貼り繪 自由畫 オルガン(摺み紙) 紙人形(摺み紙) 動章(菊花の模様) 動物の製作 動物の畫 粘土(主として動物) お面(キュービー) 塗繪(さん花) 落葉籠(摺み紙)

(二)談 話

象の魚釣 象と鯨の話 キュービーさん きのこのお傘(カサ) 富子さんのおふさん みーちゃん兎 豚と家雞とのあひるの話

(三)唱歌遊戯

鬼さんこちら 秋の庭 象 おじぎ 菊の花

(四)行 事

一日、本日より九時半始業二時放課 三日、明治節
六日、千里山へ園外保育 十五日、年少齒の検査 二十日、年少兒動物園へ園外保育 二十三日、新嘗祭 三十日、本月より園舎建築の爲大工出張用材搬入、年少兒定期體格検査

十二月

先月の末から此の月になつて、又々風邪引きで休む子供が多くなつてまゐりました、これまでに、もつこ幼児衛生を心掛けて何さかして居りましたならばも少し豫防も出来てゐたでせうに、今更申わけのない思ひにせめられつゝ此の上さも、室の中では成るべく埃を立てない様に坐る時は必ず座蒲團を敷く様に、戸の開閉も嚴重に、始終氣にかけて居りました。

お天氣は定まらない乍ら身にしみる様な冷い風が吹き募る時であつて、追々秋から冬へミ時候は移つて行きました。それで五日からお部屋へも大きな火鉢を一つ入れて貰ひましたら、朝の中は早速ミ圍りを取巻いて了つて大分話し合ひの熱も高じて賑やかでございましたがだん／＼午近くなつて、周圍が自然のぬくみを持つ様になる頃は我も／＼こ外へはぢき出されて、飯事遊びや兵隊ごっこや鬼ごっこ、走りつこなぎでよく遊びました。隠れ鬼ごこは一番皆が好きですのでお辨當の後は必ず私が誘ひ出されて追ひつ追はれつ元氣に走りまゐります。又お部屋の中では殆どお遊戯

が出来ません爲日の良く當る庭に出て、組の誰彼なく手が繋ぎ合はせて露天遊戯會を催す事が幾度かございました。

然し此の頃は早や假園舎の建築に取り掛つて居りましたので仕事場や、材木の置場等で庭が可なり狭められて居りました。時々つミ立止つて、かなな層にまみれて、立働く大工さんの姿に我を忘れて見されてゐるのもございます。

私達も毎日／＼柵の彼方から望みみ乍ら、ぼつ／＼さまの形が組まれて、仕上つて行くのを楽しんで待つて居りました。

それにお正月もだん／＼近づいてまゐりました子供の心にはもう早や十二月の聲を聞くのミ一緒にお正月を迎へる樂しさが蘇つて來るのであります、何處のお部屋からでももう幾つねるミお正月の歌やお式の歌なきがよく聞えて來ますし、子供同志で未だ來ぬ先の樂しい日を話し合つてゐる姿もいぢらしうございます。そしてかりん／＼ミ氣持の良い音を響かせて、羽根突きや風船や毬つきの遊びがミても流行り出しまして、幼稚園には一足先に春が來た様な長閑けさでございました。

例年ならば、お正月を迎へる前に、大仕掛けの年の市を開きまして皆で作りました、玩具を賣る店屋を六ツも七ツも作つてきて賑々しく遊ぶのでございますのに、今年

はそれも叶はない事になりましたのでせめて皆の作つた品はもちばなに吊り下げて持つて歸る事にしよう云ふ事になつて毎日製作で相當時間をかけて居りました。朝はお部屋に籠る時間が自然多うございましたが、それでも人数が少くなりましたせいか、割合樂な氣持で過せる様になりました嬉しくございました。

製作品は短冊や星なごを合せて一六程ございました、之れを柳に吊り下げて可愛い、もちばなをつけましたながらも随分美々しく子供達も自身で作つた物だけにその喜び方は大したものでございました。

それに二十二日には假園舎も既に立派に落成致しまして四方八方日の丸の小旗に埋つて、新築の喜びに輝いて居りました。

此の日は皇太子殿下第二回御誕生奉祝ミ新園舎落成ミ二重のよろこびを重ねて此の新らしい室でお祝ひする事の出

來ました事は何ミ幸せな事でございますたせう。もちばなの柳はそのお祝ひの氣持を籠めて大喜びで家へ持ち歸つたのでございました。そして二十四日月曜日が修了式で暫く冬休みをする事になりました。

十二月中の保育事項

(一) 手 技

ビエロー人形 紙人形製作 環つなぎ 三寶(摺み紙)
日の丸の旗 龜(摺み紙) 提灯 粘土(下駄屋) 星花
ごま製作 粘土 手提袋(摺み紙) 粘土(龜) 羽子板

(紙製作)

(二) 談 話

太郎さんのお食事 三匹の兎 ぬすみミライオン
羽子板さんに聞いた話 羽子板の話

(三) 唱歌遊戯(◎標歌のみ)

お馬 お正月(もういくつねるミ) お正月(早くこい)
こい) 手拍子(律動) ◎お正月式歌

(四) 行 事

六日、照宮様御九歳御誕生日 十九日、製作品整理 二

十日、柳へ吊り下げ 二十一日、臨時休業 二十二日、
皇太子殿下御誕辰奉祝 新築落成式 二十三日、皇太子
殿下御誕辰奉祝ラヂオ放送 二十四日、終業式

一月

年が改まりますのこ一緒に三ヶ月振りで元の懐しい赤組
のお部屋へ立戻る事が出来ましてお椅子もお机も黒板も又
元の儘の姿で私達を迎へ入れてくれました。

以前の二階建の建物は南に長く突出て居りました爲に日
光が遮られて保育室は幾らか陰氣な所がございましたの
に、今は其處が廣い空地になつて新しい園舎は赤組と黄
組との部屋の間におさまりしたのでお蔭で南受けの硝子窓
は充分に初春の光を受入れて明るく暖いお部屋になりまし
た。隣りの遊戯室へはお部屋から素板スイタを傳つて直ぐに行か
れますので一日に幾度もく、元の道を往復しては美々しく
飾られた新築の遊戯室を眺めて嬉しさうでした。それに素
板をトン／＼音を立てゝ走るのが珍らしくて汽車遊びにも
使つて面白さうでございました。假住居の間は遊戯をする
場所がございませんでしたのでピアノの音も聞きませんで

したが今は断然之の部屋一つに人氣が集りまして、大積木
も幾月振りかで子供の前に現はれて、積木を積む者や遊戯
をする者で毎日殊に午後は大賑ひでして外の寒さに引替へ
て室内は春めいた氣分が溢れて居りました。

やがて寒の入りが来て酷寒の季節さもなりますが、流石
に身を切る様な寒風が吹き狂ひまして、打顫へ乍らお部屋
の中へ逃げ込んで来ましてもストーブの火の氣はあるか無
しにしか感じないほどの厳しい日もめぐつて参りました。

凧あげや風車廻しなどで風の日を待ち受けて外に出て遊
ぶ事もございますが寒い中は一體に朝の製作に引續いて部
屋の中で遊ぶ事が多うございました。積木を積んだり色紙
を摺んだりして靜かに遊ぶ事もあれば椅子で家を造つてお
人形ごっこをしたりオルガンに合はせて躍つたりする事も
女の子には喜んでされて居りました。然し元氣一溢の子供
は寒さなごに頓着なく氷があるご聞けば逸早く馳け出して
行つたり、鋤を持つて兵隊ごっこを始めたり粹登りの頂上
を極めて上り下りの遊びを興がりましたり、偶には部屋へ
歸つて來たご思ひましたら火事だ／＼云つて折角の飯事

道具を搔亂す云ふ様な元氣餘つての悪戯もしかねませんので私も外へ出て一緒に鬼ごつこや走りつこなぎで夢中になつて遊ぶ事がございます。

又或時今年中一度も用ひませんでした人形芝居の人形を出して来て貸してやりましたら非常に好奇心を惹きまして私の仕事を真似て、赤いベツ着た金魚や僕は軍人なぎを一所懸命に躍らして居りました。人形芝居の舞臺は手製の不完全なものでして、大勢に見せるには小さすぎますし自分の組だけに致しまして私一人ではどうも役割が多すぎて故障が起きやすいので色々迷ひ乍ら今年は見合せて来たのでございましたが久し振りに取り出した人形に斯んなままで惹き付けられた子供の様子を見ますと、又是非復活してやりたい氣持になりましたので取り敢へず眞黒に汚れた埃を拭ひ暮の繕ひもしておいたのでございました。

午前中は時間が短いので少し手の込んだ仕事でもして居りますと、直きにお午が参ります。子供に取りましては、お辨當の時間が一番楽しい時でございますので毎日拍子の合圖を待ちかねるのでございました。この喜びの氣持を逃

さずに、皆揃つて頂ける美味しいお辨當を通してお母様に對する感謝の心を植ゑつける事が出来ますれば幸せだと思つて居りました。この頃ローラースケート云つて、蠟紙で亘る遊びが流行り出して、蠟紙が重寶がられる様になるも、家でもせがむらしく蠟包みのパンがちよいと目に付く様になつて來ました。お辨當の濟んだ後はてんでに其れを貰ひ受け様として先を争ふのでございました。お天氣が良ければ午後は暖かくなりますから、大抵鬼ごつこをして、お歸りまで外で遊べますが反對に、雪や霰でも降りさうな空模様でしみ入る様に冷たい日は子供も、随つて沈みがちで元氣もなく女の子の中には朝出るのが臆劫になりますのか嫌がつて泣く子も出て來ました。こんな時には早く春になればいゝのにと思ひますけれども春までは來月もう一月の峠を越さねばなりませんでした。

一月中の保育事項

(一)手 技

お正月の晝 雪だるまの製作 塗繪(もちばな) ぶびす
様の面 紋形(貼り方) 塗繪(風船) 自由畫 馬(摺み紙)

風車製作

(二) 談話

ねずみの工夫 富子さんの風船 豆藏の行方 三匹の小

豚 ころりん爺さん 鶏ミ狐 雪だるま 鼠のよめ入り

鼠ミライオン 三匹の仔犬の話

(三) 唱歌遊戯(◎標唱歌のみ)

電車ミ汽車 手拍子 お日さま 雪やこんく 鼠の兵

隊 ◎豆撒き

(四) 行事

八日、第三學期始業式 二十三日、體格検査

二月

此の月から出席表を用ひる事に致しました。他の組では既に九月頃から始めて居りましたが私の組には未だ自分の名前が讀めない子供が多かつたし小さい圓形を樹の中へ一ツく貼りつけて行く作業が細かいので延してゐたのでございましたが早や三學期もなつた今は、そろく年長組になつた時の用意にもと思ひ、二三の子供には、名前の字頭に目標をつけて置きまして、登園しました子供から直

ぐに自分の名前の下へ貼らせる様にして居りました。朝はそれで大方部屋にゐて、私が付きまりの様にして居りました。

二月に入つて間もなく、年中行事の一つとして節分を迎へました。鬼や福の面は前から作つて置きまして、やがて當日になればお話やら御遊戯をした後、小さい三寶へ入れて貰つた豆を皆と一緒に美味しく頂いて、楽しい半日を過したのでございました。之の時分からもう直ぐ大きい組になれる、お年が一ツふえたのだ云ふ自負心が周圍の者の誘導も手傳つて大分子の心にはつきりき、きざみつけられて來た様でございました。

いよく年少も後一月餘りでお終ひになりますので一年間の總勘定をつける意味で今學期中に遊戯會ミ畫の展覽會ミの二つの大きな行事が控えて居りましたので二月一溢はこの仕事を中心に進んでまゐりました。

酷寒の季節ミ申しましても今年の冬は割合に暖かうございましたので朝の中は、何か設定された保育を致しますミ午後は、大抵遊戯室や庭で自由に、遊んで居りました。も

つゝ自由遊びの中に仕事の分量を多くして行き度いと思つて居りましたが思ふ計りで仲々實行が伴ひませず、自然、遊戯の練習と書き方の方に多く勢力が傾いて参りました。

遊戯は折角父兄を招待する以上、出来るだけ立派に見せる様に毎日一所懸命に練習を重ねて居りました。こんなに毎日熱心に練習を繰返してゐて之れで本當にいゝのか知らゞ疑ひを挟み出しますゞ自分乍らも頼りなくなるのでございませすがそれでも此方が勵ましてやれば子供も一所懸命に致しますし、今まで一度も遊戯をした事の無かつた子もお母様に、見に来て、頂くのだと云ふ事で初めて一緒に出来る様になつたのでございます。

遊戯會をかねた父兄會は二十一日と二十二日の二日間に互つて致しました。最初の日は晴天に恵まれて、園庭で行ひましたが次の年少組の日は生憎の雨天でございましたので遊戯室でいたしました。其の日參觀に参りました親達は我が子のいぢらしく躍る姿を見付けらるゝさも嬉しさうに溶け入る様な笑を浮べて瞬きもしない有様でございました。

遊戯會の済みました後は、引續き展覧會の準備で何の組

もくお畫かきの大流行でして、矢張り此方がそうした環境に置くからでございませうか、強いるのでなく子供も又自ら好んで描いて居る様でございました。然し私の組は未だ年が行かない爲ですか畫く事は餘り興味を持つて致しませんので——今年に餘計にさう云ふ風に感じるのでもございますが——だんく期日が迫つて来るし内心はらくらく氣を揉んで居ります割合に、子供は極めてのびやかに平氣な様子でございませうので今年はその氣持の儘で展覧のある事は一言も口に出さずして、月末までに自動車のお人形を主題にして、二枚の繪を畫かせたのでございました。然しその畫は他の組に比べて描寫の仕方、内容もかけ離れて見劣りのしたものでございました。

かうして出來た繪を裏紙に貼りつけて大體用意も整いました頃やがて二月も去つて周圍は何時からとも無く春の息吹きを感じる様になつてまゐりました。

二月中の保育事項

(一)手 技

自動車(摺み紙) 鬼の面 椿(貼り繪) 福の面 寫生

(楕) 三寶(摺み紙) 自由畫 寫生(桃) 塗繪(だるま)
自由畫(自動車) 紋形(貼り方) 自由畫(人形) 自由畫
紋形(貼り繪) 門(摺み紙) 塗繪(國旗)

(二) 談話

豆藏の行へ まめ／＼のびよん吉さん

平藏さん三權藏さん 月夜の狸 ニャン吉ミチュー助

ブレーメンの音樂師 三匹の熊 赤帽子さん

(三) 唱歌遊戯(◎標歌のみ)

◎豆まき 大きなお日様 ◎雑祭り 飛行機 椿 春よ

こい ◎紀元節

(四) 行事

四日、節分遊び 八日、式の練習 十一日、紀元節拜賀

式 十五日、口腔検査 十九日、遊戯會練習 二十二

日、年少保護者會併せて遊戯會 二十六日、體格検査

三月

三月は何かさ、行事の多い忙しい月でございました。二

日三日は全國の保育大會が國民會館で開かれました朝から

私達が出席致しましたし、その爲お雑祭りも七日に延ばし

まして、其の日は、お雑様の前で御馳走を頂き楽しい一時
を過して來たのでございました。十日の陸軍記念日には、
日曜日にも拘らず小學校の子供と一緒に日丸の旗
を振り立て乍ら部内中を旗行列で歩きました。

十三日からいよ／＼畫の展覽會の準備に取りかゝりまし
て、十四日十五日の兩日を展覽日に致しました。畫の數は、
全部で五百五十枚程ございましたでせうか、大體年長組は
三枚さ、年少組は二枚を標準さして選びましたものを、組
別にして順々に貼りつけたのでございます。午後からは多
數の父兄の參觀で賑はひました。之の機會を捕らへて、丁
度學期末でもございますので母親から家庭の様子を尋ねた
り此方からも聞いて頂きたい事を申し上げたり致しますのに
大變好都合でございました。

其の後は引續き午前中の保育にして學年末の整理や卒業
式の豫行演習等さ、忙しさに暇も無い程でございましたが
中一日は年長年少の子供が打連れて、石清水の八幡宮へ記
念遠足を致しました。其の日は本當に暖かくボカ／＼さ、
春の陽が一澄に降り注いで何さも云はれない恵まれたお天

氣でございました。京阪電車に乗り替へ又ケーブルカーに
乗つて、男山の頂上から下を見下した景色や八幡宮に詣で
御祈禱をして頂いた事、又は櫻林の下で、こぼれさうに、
吹き出てるる、蕾のふくらみを見上げながら、楽しくお辨
當を開いた事なき、幼稚園を去つて行く子供には忘れがた
い思ひ出さなつて、何時までも胸に残る事でございませう。

二十二日は、いよく四十五回目の卒業式でございまし
た。父兄に伴はれて、新しい洋服を着た子供達が今日大人
がぎんな感情を抱いて居様も其んな事には係り無く何の
子も、喜びにはち切れさうな顔をして次々、登園してまる
ります。親達にしてみれば何の分別もなかつた頑是ない子
供達を母親もなり代つて二年の間御世話して頂いた先生
も此の楽しい幼稚園も今日を限りにお別れして去らね
ばならないのだと考へますと、子供が幼ないだけに餘計に
いぢらしさが募つて別れ際が辛くなるのでございませう。
式中堪らなくなつて咽び泣き聲さへ洩れて来る程でござい
ました。送り出す私達も又同じ思ひに胸一溢になつて、お
互ひに別れを惜んだのでございました。

卒業式が済んだ翌日は後に残つた年少組計りで一年間の
保育終了式を致しました。これでいよく昭和九年の一年
間もお終ひになりました暫く春休みを致しました後四月か
らは新らしい年長組として緑組へ進んだのでございまし
た。

三月中の保育事項

(一) 手 技

内裏雛(摺み紙) 壁掛(雛人形の貼り繪) 塗繪(内裏雛)

菱箱製作 塗繪(幟り) 自由畫 粘土

(二) 談 話

お人形 スナップさん 三吉さん

(三) 唱歌遊戯(◎標歌のみ)

雛祭り 私の人形 春よろこび 送別の歌

(四) 行 事

二日、保育大會につき會集のみ 七日、雛祭り 十日、

陸軍記念日旗行列十三日、描き方展覽會の準備 十四日

十五日、晝の展覽會 十六日、體格検査 十八日、卒業

式練習 十九日、園外保育 二十日、卒業式練習 二十

一日、春期皇靈祭 二十二日、卒業式 二十三日、終了式
かうして色々過ぎ去つた日の事を思ひかへしてみます
ミ、其の間には随分至らぬ點も多うございしました。けれど
もこの一年中自分も子供も一ツになつて喜憂を共に無事に
過させて頂けましたのは何よりも有難い事でございまし
た。

年長組になりますれば、今までミは子供の氣持も保育の
仕方も色々變つて來る事でございませうが去年の失敗は
再び繰返す事なく今年も又恙く一年間を過して行きたいミ
存じて居ります。

至つて未熟な者でお恥しい事でございますが此の際に諸
先生方の御導きミ御力添へを給はりますればごんなに幸せ
を致します事かミ存じまして、不束な身も負みませず以上、
記させて頂きました。

どうぞ御指導下さいませ。(完)

木の葉で駈つこ

鈴懸の葉が、一夜の露でしつとりとぬれた黒い地面
に、點々と散り敷いてゐる。朝、保育室の重い扉を、
庭へ開いた時、この景を見るのは一つの楽しみであつ
た。

或る日、どこの室でももう歸り支度をしてゐて、外
では男の子の一隊が居るばかりであつた。これをよび
に出た私は展開された目の前の景に吸ひつけられて立
ち止つたのである。

それはいつも室の掃除につかふこみ取りに鈴懸を一
葉づゝ乗せて、駈つこをしてゐるのであつた。

二人づゝが、よおーいドーンで駈けてゆく。子ども
と、こみ取りと、葉つばと。途中、積木を一つとび越
える關所があつて、こゝでビヨンと飛ぶと鈴懸はヒラ
ヒラと飛ぶ、あはて、拾ひに行く姿。

思へば幼稚園の庭にはあそびがかうして方々にごろ
がつてゐるらしい。

(よしこ)